

ひまわり号走る

青い海に歓声

ひまわり号は、体に障害があるため、自由に列車やバスで旅行ができない人たちの夢やあこがれをかなえようという列車です。

「一度でいいから列車に乗って旅がしたい」「旅をさせてあげたい」そんな思いをどっさり詰め込んで、十一月一日、ひまわり号が走り出しました。

県内からのひまわり号は、昨年の上野動物園行きについて二度目。今年は「海を見た」「潮の香りをかいでみたい」というたくさんの希望によって、大洗の海と水族館見学が決まりました。

参加者は障害者百六十三人のほか、家族、ボランティアなど、総勢六百四十人。

日光地区からは七十八人が参加しました。家族や関係者

が見送る中、午前六時九分、JR日光駅を出発し、宇都宮、小山地区の仲間と合流、一路大洗へ向かいました。

列車の中では、移り変わる秋の景色を眺め、ボランティアと合唱したり、話しをしたり、思い思いに列車の旅を楽しみました。

水戸からバスで大洗へ。窓から海が見えだすと思わず「ウワー」「大きいなー」の歓

声。

水族館の入口では、大洗町の関係者や地元ボランティアが大勢出迎え、歓迎の式典が催されました。

このあと、列車の中でそれぞれが願いごとを書いた短冊を、色とりどりの風船につけて大洗の青空へ飛ばしました。

午後は海を眺めながら昼食。水族館では大小の珍しい魚を見たり、恐る恐るヒトデに触ったり、楽しい秋の一日を過ごし、午後八時十分、日光に帰ってきました。

夢がかなってよかったですね。

